令和6年度 第2回学校運営協議会 報告

1 日 時 令和6年10月9日（水）午後1時30分から3時まで

2 会 場 藤枝特別支援学校焼津分校 相談室

3 参加者

(1) 学校運営協議会委員

委員 A、委員 B、委員 C、3人

(2) 本校職員

校長、副校長、事務長、部主事、教務主任、進路指導主事 6人

4 会議次第

(1) 開会／校長挨拶

(2) 前期の学校・学部経営に関する取組報告

(3) 校内参観

(4) 進路指導について説明及び協議

(5) 校長挨拶／閉会

5 会議内容

(1) 開会

ア 校長挨拶

- ・1学期の学びに加え、実習等外での経験が生徒たちの成長につながっている。今回は、実際に校内の様子をご覧いただき、御意見を伺える限られた貴重な機会。いただいた意見を今後に生かしていきたい。

イ 日程説明

(2) 前期の学校・学部経営に関する取組報告

ア 令和6年度焼津分校学校・学部経営教職員前期評価について

(ア) 説明

- ・評価の観点の確認。成果目標に達している場合はA評価、以降順次BCD。

(1) 危機管理マニュアルの活用は、日常的に確認する機会がある。引き続き前向きに取り組んでいく。(A)

(2) 安全点検については、時間を確保し今後も実施していく。(A)

(3) 挨拶については、先日、水産高校との実習船体験乗船交流のアンケートで、水産高校の船員の方から自分から挨拶をした生徒が2人しかいなかった、とあった。分校教員は、校内での挨拶はできていると認識しているが、いつでもどこでも誰にでも挨拶ができるように指導していきたい。(A)

- (4) 共感や相手を思いやる言動については、指導を継続するとともに、教員の言動に留意していきたい。(B)
- (5) 多様性や個々の良さを認め合うことは、繰り返し指導し更に深めていく。(A)
- (6) 生徒からの相談事は、早い段階で把握し、組織的に対応していく。(B)
- (7) 授業については、生徒が自分自身の成長を実感できるよう授業づくりを行っていききたい。(A)
- (8) 教材研究及び授業改善については、評価はBだが、自主生産作業だけでなく、他の教科でも進めていきたいという前向きな意見がみられている。(B)
- (9) 授業でのICT活用により、生徒の理解の深まりが見られた。今後質の向上を図りたい。(A)
- (10) 研修の学びは特定の場面で授業改善や生徒指導に生かしている。今後、広げていきたい。(A)
- (11) 業務の目標や重要点とスケジュールを自分で考え、効果的に業務を行うことについては、業務変更から提出期限が過ぎたことがあった。一人一人が業務改善について考え、後期改善をしていきたい。(B)
- (12) 体育大会の準備などで生徒が水高生と一緒に役割を行うなど交流活動の目標が達成できている。(A)
- (13) 具体的な活動を通して、生徒同士のコミュニケーションが図られ、双方の理解や成長を促す交流活動につながっている。必要に応じて生徒の配慮点や特性を相手側に伝える必要があるが、自分で思いを伝えられるようにしたい。(A)
- (14) 本人中心での個別の教育支援計画、個別の指導計画を活用することは、キャリア面談などを活用して日々の生活に活かしている。段階的な支援の必要性を感じている。(A)
- (15) 保護者や職場実習先、関係機関等と情報を共有し「なりたい自分」の実現に向けて支援を行ったことについては、事前の情報共有ができていた。個々の手立てや支援を具体的に伝えていくようにしたい。(A)

(イ) 委員からの意見及び返答（・意見 →回答）

- ・ (3)の挨拶について、人との関わりにおいて挨拶がまず第一。次に人と話せる力。より多くの人に挨拶ができるように。また、人に伝える、声を掛けて話せる機会を多くしてもらいたい。

→人に伝える、声を掛けて話せる機会を多くしていく。

- ・ (6)の人間関係について、正直な思いを吐き出せているか。自分の本音を話せる相手をつくること、本音を話すことができるようにしていくことが大切。実習生の日誌に、親と喧嘩した旨が書かれており、お互いの気持ちを知らないで喧嘩はできないことを伝えた。仕事場では家庭のことはわからないが、家庭から家での出来事について手紙で伝えてもらうこともOKとしている。思春期ではあるが、話すだけでなく書くなど何らかの方法で気持ちを出せるようにしたい。

→生徒には話しやすい先生に話すこととスクールカウンセラーへの相談を勧めている。社会に出ていく中で、外部の支援を使って、本音を言える場を作っていけるように支援していきたい。スクールカウンセラーは、話す練習になる。いきなり自分のことを誰かに言うことは難しいかもしれないが、相談の練習として活用してもいい。授業でも自己受容、自己開示など安心して話せる力を育てていきたい。

- ・先生に話してもうまく回答が返ってこないことから、先生に言っても無駄と自分で決めて、言わなかったり、殻にこもったりしてしまう子もいる。また、家で相談ができる家庭ばかりでもない。そう考えると、学校と家庭とのコミュニケーションも大切だと感じる。

→親子関係についても、講演会などに入れていくのも方法かと思う。

イ 前回の学校運営協議会での協議を受けて

(ア) テーマの説明「令和6年度学校経営計画について」

(イ) 説明

- ・不審者対策の防犯カメラについては、次年度設置の方向で予算等考えている。水産高校生の移動が多いため、門扉の設置は難しいので、西出入口を閉めておくことを基本ルールとした。
- ・入室許可名札の着用については、徹底できていない。分校における必然性と方法を再検討したい。
- ・国語数学の時間数への対応については、授業以外の学習の中でも国語数学に関する内容を意図的に取り扱い、授業時数を補うようにしている。
- ・委託作業をいろいろな企業に周知することについては、職場開拓や企業が集まる会議等で伝えている。分校の生徒が責任をもって行える量と内容かを相談し受託するようにしている。
- ・安全環境等の点検については、一つ一つ確認し概ね対応している。

ウ 校内参観

- ・安全環境等点検表をもとに、校内参観及び安全点検をしていただいた。

エ 進路指導についての協議

(ア) 説明

- ・進路課長から、進路の考え方、職場実習の目的と流れ、企業が求める力、地域作業の概要や目的について伝えた。
- ・「焼津分校の進路指導、職場実習、地域作業の進め方について」と「生徒が『なりたい自分』に近づくために必要な支援のアイデア」について、御意見をいただいた。

(4) 協議（・意見 →回答）

- ・実習先について、保護者も子どもも悩む。職種で選択して行ってみて、仕事内容が違うことがある。介護施設の仕事を選んだが、実際は外の清掃など。事前打ち合わせに親も同行し話を聞いても実際と違うことがある。この企業はこんな仕事を行う、ということがある程度わかるように示してほしい。やりとりのズレがなくなる。
- ・今年は1年生から職場見学にきてもらった。会社内で職種がたくさんあることと、将来的にどの仕事になるかわからないことから、4種類の仕事の見学を行った。うちの会社に来たいと考えている人に間口を広げていきたい。支援学校卒業の生徒で10年来仕事をしている方がいる。以前は、支援学校の卒業生は、仕事内容を分けていたが、今は同じ仕事をしている。1年生から実習を受け入れて、「できる子がいる」と企業側が思うことが大事。
- ・以前に、静岡の特別支援学校で自分が進路を担当していた時は、浜松や沼津から通う子もいた。地域で働くために、就職先を探すのが難しかった。会社にとって、特別支援学校卒業生が来るメリットを感じられると会社との関係も長く続く。挨拶が良いとか職場が明るくなるとか会社にとって、プラスになる存在になれることが大切。一人一人の良さが発揮できると良い。
→「なりたい自分」を描けない生徒もいる。それを描くところから丁寧に指導していきたい。仕事内容についても具体的に示していくようにしたい。

(5) 校長挨拶／閉会

- ・私達は、これが一番良いだろう、正しいだろうと思って指導をしている。それを学校の外の視点から問い直し、マッチしていれば素晴らしいが、異なっていたら捉え直していくことが大切。学校外部の方の意見をいただける機会は限られているので、意見をいただけて有難い。教員は、親にはなれないが、身近で働いて社会生活を営む理想的な大人、信頼できる大人として関わることはできる。毎日誠実に目の前の子と関わることを続けていきたい。